案　件：第２回お互いさまのまちづくり協議会　議事録

日　　時	令和３年１１月１５日（月）午前１０時 30 分～12 時１０分
場　　所	豊橋市役所　東館８階　東８２会議室
参　加　者	委員　１３名 アドバイザー　１名 事務局　長寿介護課

（１）重層的支援体制整備事業への参画について
・事務局より説明

－　意見　－
・委員　　：今後は組織体が新しく出来る形になるのか、それとも既存の枠組みで事業を行うのか。
・事 務 局：現段階では体制も含め、まだ具体的な事業の形は定まっていない。
・委員　　：生活支援コーディネーターへは子どもや発達障害を持つ方との関わり方の相談が来ている。多分野が一体的に相談できる場が必要であり、それができれば生活支援コーディネーターも活動がしやすくなる。民生委員とも協力できるようにしたい。
・委員　　：8050 問題など、引きこもり支援にも繋がる。
・委員　　：新しく組織体ができたほうが良い。現状の福祉行政は複雑で相談先が分からない。分かりやすい組織にして欲しい。
・委員　　：事業は分野ごとに行っているのが現状。まずは、既存の組織をどう横へ繋げるかが重要だと思う。重層の事業のパーツのいくつかは社協が行っているが、今までバラバラだった事業を横の繋がりも意識して実施することが必要。
・ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：重層的支援体制整備事業は、簡単に言えば「相談支援」「参加支援」「地域づくり」の３つを一本化したもの。複雑なので、実際に支援に当たっている人は混乱すると思う。豊橋らしさを出しながら、各部署が縦割りをどう本気で無くすかがポイントで、事務局には案内役を担ってほしい。
・事 務 局：重層的支援体制整備事業については、今後も方向性や事業内容を本協議会にて報告し、意見を伺う。

（２）支え合い活動団体に向けたアンケート結果について
・事務局より説明

－　意見　－
・委員　　：アンケート結果は予想通りといえる。公共施設で活動している団体は施設の規制等で活動の場がなくなった。いくつかの団体が活動をやめてしまったような状況で、高齢者が大人数で集まるのは難しい。少ない人数で自宅に近い場所で活動したほうが良いのではないか。
また、役所の中で横のつながりを持つようにすべきだし、地域の課題解決は自治会を中心に動いていくべき。
・委員　　：高齢者の健康寿命を延ばすためには元気な人が集まるのは必要なことだと思う。

・委員　　：少ない人数でというのは、コロナ禍の中でという意味で、通常時は大勢で集まって良いと思う。活動場所として空き家の活用も進めるべき。
・委員　　：社会情勢の変化等により、老人クラブも加入者が少なくなっている。一声運動も実際に役員以外で協力者が少ない。また、居場所をやっているのは一部の校区のみで実際に動ける人が少ない。空き家など場所はあるのに法律等の制限で動きづらい。
・委員　　：老人クラブや子ども会連絡協議会は年々減少し、自治会はなり手がいない。原因やあり方をしっかり考えるべき。
・委員　　：居場所づくり自体が、以前と比べ盛り上がらなくなった。支え合い活動は小さな組織だとさらに難しい。ただ、来ている人は楽しんでいる。月１回でも誰かと話すことが大切。

（３）議事　アンケート結果を踏まえた今後の支え合い活動団体への支援方針について
・事務局より説明

－　意見　－
・委員　　：（２）で上がった話にあったように、新型コロナ感染症だけでなく世の中の変化を見据えた支援が必要だと思うが、生活支援コーディネーターとしてはどう思うか。
・委員　　：マニュアルを示すことで活動しやすくなる団体はあると思うので、マニュアル作成には賛成する。
・委員　　：お互いさま広げ隊の派遣を希望した活動団体への個別コンタクトについては、自分たちのやり方があるため、あまりコンタクトを取りたがらない団体もあるので、希望をしない団体にはコンタクトを取っていない。自分の団体の場合は、手紙で参加者の安否確認を取るなど工夫して活動を継続している。
・委員　　：自治連合会は市役所各課からの伝達事項を伝えるのみとなってしまっている。せっかく各自治会から集まっているのに、避難所運営などは十分な議論ができなかった。支え合いの分野でも自治連合会は協力できていなかった。今回この協議会に参加して、伝達だけではなく、意見を出し合って地域の繋がりを作っていきたいと感じた。
・委員　　：是非、自治会に民生委員を呼ぶようにしてみて欲しい。
・委員　　：地域が抱える問題を地域で考えることが大切。のびるん de スクールのサポーターはシルバー人材センターが行っているが、岩田では支え合い活動をやっている人が登録している。多世代交流につなげている。
・委員　　：のびるん de スクールは生涯学習課の事業でシルバー人材センターが委託先となっている。現在１２校で行っており、２時間の仕事だが、高齢者の社会参加の一助になっていると思う。
・委員　　：のびるん de スクールは部活動の補完として始まったが、コミュニティ・スクールに繋がっていく事業だと思う。 自治会を中心に地域の繋がりを作ることが必要。岩田では選挙立会人を 19－20 歳の若者にやってもらう取組みをした。高齢者ばかりがやるべきではない。
・委員　　：自治会等に女性の役員が少ないのも課題。
・ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：クオーター制などで女性の役員を増やすことも必要だと思う。自分の地域の同じような協議体では、高齢者福祉の部署だけでなく、建築課（空き家対策）や市民協働課も会議に参加している。せっかく地域の色々な立場の意見が聞ける場なので、他の課も同じ席で聞く体制を作るべき。

・委員　　：重層的支援体制整備事業を行うのだから、お互いさまのまちづくり協議会に地域づくり事業の各課も来てもらいたい。また、生活支援コーディネーターは月に一度連絡会を開いているので、その場にも時間が合えば、協議会委員や他課職員も来てもらいたい。

・委員　　：アンケート結果について、報告書に載っていないもっと工夫している団体もある。20～30 人の団体では、脳トレクイズやお手紙をポスティングしたり、電話で参加者同士が伝達を回す取組みをしているところもある。ここ２年でフレイルが増加している傾向を感じる。認知機能や足腰が弱ったという相談が増えた。月１度でもこういった取組みをしているだけで違いが出る。

・委員　　：お互いさまのまちづくりネットワークは４７団体しかないということだが型にはまるのが嫌で登録していない団体もあると思う。マニュアルについても、上から目線で渡すのではなく、工夫が必要だと思う。マニュアルを渡したために、責任がマニュアルを守らなかった主催者にあるとなってはならない。

・委員　　：お互いさまのまちづくりネットワークと類似のネットワークがバラバラになっている。色々なリソースを繋げるべき。

・委員　　：アンケート結果で不安材料の最も多い要因だった「感染者の責任の所在」についてフォローできるような支援が必要ではないか。マニュアルだけでは解決できないと思う。活動中にコロナ感染者が出た場合に、責任はどうなるのか。

・事 務 局：コロナの感染者が出た場合については、感染経路や原因を明らかにすることは難しく、責任を問うことはできない。

・委員　　：活動団体の主催者がどのように活動を継続しているのか、責任についての考え方も含めて現在お互いさま広げ隊で聞き取りを行っている。今年度中にまとめて報告したい。

・事 務 局：次回協議会ではマニュアル案について議論するとともに、お互いさま広げ隊の個別コンタクトの活動報告を行いたい。

（４）その他　今後の協議会の開催方法について（Zoom による開催の検討）

・事務局より説明

対面での開催を基本とするが、感染状況により Zoom での開催も選択肢とする。

（５）令和３年度　第３回協議会の日程について

令和４年２月２１日（月）１３時３０分～